

科学者委員会男女共同参画分科会

Gender Summit 10 フォローアップ小分科会(第24期・第4回) 議事要旨

1 日時 平成30年12月7日(金)10時00分～12時00分

2 場所 JST 東京本部(サイエンスプラザ) 8階会議室
(東京都千代田区四番町5-3)

3 出席者

渡辺美代子委員長、松尾由賀利副委員長、行木陽子幹事(Skype出席)、伊藤公雄委員、井野瀬久美恵委員、高橋裕子委員(Skype出席)、藤井良一委員、三成美保委員(Skype出席)、森初果委員

4 配布資料

資料1:女性研究者表彰制度について

資料2-1:学術フォーラム「ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来～GS10 フォローアップ～」開催報告

2-2:NHK ニュース おはよう日本 けさのクローズアップ

2-3:NHK NEWS WEB“脂肪が減る薬”!?研究が前進した意外なきっかけ

2-4:学術の動向 12月号の目次

参考:科学者委員会男女共同参画分科会 Gender Summit 10 フォローアップ小分科会(第24期・第3回)議事要旨

5 議題

(1)最近のジェンダーをめぐる動向について(報告)

- ・JSTにおいて女性研究者のための表彰制度の創設を計画中であることを紹介し、制度周知についての協力依頼を行った。(資料1)
- ・アジア学術会議で Gender Summit 10(以下、GS10)の成果として発表した BRIDGE を紹介。ギース(GEAHSS)の立ち上げ、国際コミュニティとのコラボレーションとして GS10 をあげ、ジェンダーセンシティブデータが必要との提言を出した。GS 自体は理系が中心だが社会実装には社会科学が必要。BRIDGE をどう具体的にしていくかが重要。
- ・10月にオランダのアムステルダムで開催された The STEMM Equality Congress 2018 で Gender Equality 2.0 について説明した。
- ・東京大学では文系(東洋文化研究所等)の女性所長が増え、女性の事務採用も増えている(現在約4割)。部局に女性が少ないが、ポストが限られている中でどのように女性を採用していくかが課題。

(2)2019 年度 GS10 フォローアップシンポジウムの企画について(審議)

<日程>2019 年 5 月末から 6 月で調整する

<テーマ> SDGsと Gender Equality 2.0

<主な議論>

- ・GS10 の BRIDGE を SDGsに絡めることが重要。アジア学術会議のセッション“Beyond SDGs”を含め学術会議では、SDGsの達成と同時に SDGsに足りないことを指摘しなければならぬと議論している。
- ・ジェンダーの広がりをつながりを通軸として Gender Equality 2.0 等をテーマとし、パネルディスカッションで掘り下げてはどうか。
- ・講演者は SDGsに対する動きについて、データをエビデンスにして話せることが必要。
- ・基調講演はなしでもよい。例えばグローバル企業で日本に支社があり、このテーマで話せる女性などがいるとよい。
- ・単一化した組織がどれだけ良くないか、また女性が入ることによりいかに組織が活性化するかを話してはどうか。
- ・講演者を決める際には地方の視点を取り入れることも重要。
- ・ジェンダー平等の動きをどのように広めていくかという観点からメディアの方に講演してもらうことも考えられる。
- ・成果報告は質のよいグッドプラクティスのみでよい。
- ・ジェンダー平等に関するデータを分析する組織は作らないが仕組みを作る予定があり、これに関する講演をしてはどうかと考えている。

(3)その他(次回会議日程他)

- ・次回日程は 2019 年 2 月～3 月初めで調整する。
- ・登壇者については各委員において引き続き検討する。